

ふれあい情報

2021年 11月 25日 (木) 第336号

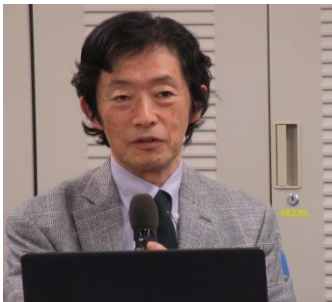
■発行 日本退職者連合
 ■発行人 野田 那 智 子
 ■連絡先 〒101-0062
 東京都千代田区神田駿河台 3-2-11

<TEL>03-5295-0507 <FAX> 03-5295-0541 <e-mail> ntr@sv.rengo-net.or.jp

退職者連合 社会保障学習会

2040年の社会保障の姿を考える

講師 香取 照幸先生



11月22日、退職者連合は上智大学の香取照幸先生をお招きし、社会保障に関する学習会を行いました。今回は、コロナの感染状況が相対的に落ちついていることも踏まえ、会場にも50人余の会員においでいただき、ライブ配信も含めて120人の方にご参加いただきました。今号では講演の骨子をお伝えします。

何故、2040年なのか

それより後は、変えられる未来だからです

2040年には、私は85歳になります。皆さんはおいくつでしょう。(笑)

なぜ2040年かという点、ひとつには、大体この辺で日本の65歳以上人口がピークになるといわれるのがあります。その時点で3900万人、高齢化率で言うと、37%くらいになります。その時には、電車は片側全部シルバーシートにしないといけなくなる訳ですね。

人口推計は当たります

では、なぜ今2040年のことを議論しているかという点、今現在の時点で、そ

れまでに何をしておくべきかを考えなくてはいけないからです。

将来予測というのは大体はずれるのですが、人口推計だけはかなりの確率で当たります。今年生まれた子どもの数が分かれれば、20年後に働き始める人の数が分かる。その人たちは65年後か70年後にリタイアしていきます。人口構成は順送りに行きますので、その推計は確実なんです。

仮に、何かで急に来年2百万人子どもが生まれても、実は世の中は変わりません。その子たちが稼ぎ始めるのは20年先になりますから。

講師紹介

香取照幸さん

1980年旧厚労省入省。内閣参事官、年金局長、雇用均等・児童家庭局長等を歴任。その間、介護保険法、子ども・子育て支援法、男女雇用機会均等法等多くの制度創設・改正に携わる。2017年、アゼルバイジャン共和国大使。2020年より上智大学総合人間科学部教授。一般社団法人未来研究所代表理事。

人見会長あいさつ



今日は社会保障の学習会です。社会保障問題は、今回の選挙でも必ずしも論議が深まりませんでした。将来に対する不安が国民の中に強くあると思います。

少子高齢化が言われています。今、1年間に生まれる子どもは80万人を切りそうです。社会保障の将来を考えれば、しっかり働き、税と社会保障料を払える人を増やしていくのが大きな課題だと考えます。

総選挙は皆さんのご尽力にもかかわらず、残念な結果になりました。来年は参院選です。連合推薦候補の必勝をめざしてがんばっていきましよう。

20年後の働き手を確保するには、今始めないと

逆に言うと、20年後の働き手を確保しようと思ったら、今少子化対策をやらないと間に合わないわけですね。今考えないといけないので、2040年の話を今しているわけです。

皆さん、20年後はもしかしたら三分の一くらいはおられないかもしれないですが(笑)、幸せに死んでいくかどうか、お子さんやお孫さんにいい社会を残せるかどうかは大きなことです。是非自分の問題だと思って考えてください。

社会保障は、困った人(だけ)のためではない

さて、社会保障は誰のためにあるのでしょうか。

「困った人を助ける」のが社会保障だ、と。大体の高校生はこう答えます。でもそれは社会保障の一面でしかありません。

本当は、社会保障は「すべての人のため」のものな

のです。自分は元気だし関係ない、と思ってる人も明日どうなるかは分かりません。人生分からないわけですよ。何か事があつた時に特別なお金持ち以外は自分では解決できません。大震災を経験して分かることですが、一度生活が壊れると、もう一度立ち上げるのは大変です。

人間だれしもリスクは抱えています。社会保障は困った人のためにあるのではなくて、実はみんなのためにあるんです。だから、皆保険なんです。



福祉国家の理念とは何でしょう

生活を守り、社会の分断を回避することです

アゼルバイジャンのお金持ちの住むところ

戦後の先進国は、みんな福祉国家を名乗っています。救貧活動そのものは古くからあります。これは、分断を回避し、社会が安定し、経済が成長するのを支えるためです。

世の中、めちゃくちゃな貧乏人と金持ちだけになったら、まとまりっこありません。お互いに同じ人間だと思わなくなります。アゼルバイジャンでは、お金持ちはヴィイラと呼ばれる塙に囲まれた1キロ四方とかの「街」に住んでいます。入り口にはガードマンがいて、その住人と許可されたお客さん以外、中に入れません。お巡りさんも入れません。治外法権です。同じようなのはアメリカにもいっぱいありますね。日本はそこまで行っていませんが、

そういう社会にならないようにする、というのが社会保障の仕事です。

経済で言うと、経済を支えている需要の6割は個人消費ですから、下の人を寄せて行つて分厚い中間層を作るということが経済を支えることとなります。分配が大事だ、というのはそういう意味です。これは全体を成長させる上でも理にかなっています。

年金制度は人類の知恵で作ったもの

もし年金制度がなかったら、と考えてください。その場合、自分で65歳までの間にその後の生活費を稼いでおかねばなりません。その場合、いくつまで生きるか分からないから、念のため余計に貯めておこうということとなります。リスクプレミアムですね。

皆がそれを始めると、社会全体で見ると過剰にみんな

なお金を貯めていないことになる。お金を使わないから、その分だけ現役の生活が細ることになります。リスクを個人で取るとそういうことになりますし、かつ、それができない人もいるわけです。そこは生活保護になりますので、結局「一人一人ですべてを助けてください」という方法は、個人で見ても社会全体で見てもコストが高いわけです。

だから年金制度なんですね。一人一人にとつても社会にとつてもコストが低くなります。あれは人間が知恵で作ったものです。もともとはドイツのギルドの養老制度から始まっています。が、よくできた制度です。



社会保障の基本的な理念は

一人ひとりの活力の総和＝社会の活力です

こういう考え方の基にあるのは、自由に一人ひとりが可能性を選べる状況にあり、その上でがんばるから社会は発展するんだ、という考え方です。一人ひとりの活力の総計が社会の活力になる。そう考えると、逆に個人が不確実なリスクを全部背負うということになると、社会もどんどんシュリンク（縮小）していくわけですね。そういう社会は成長しない。

セーフティネットは落ちた時のためにあるのではない。思い切った飛ぶためにある。

そう考えると、セーフティネットというのは、皆が考えるのと少し意味が変わってきます。空中ブランコ乗りが技量をあげるには、思い切った勝負しなくてはいけない。思い切った飛ぶためにセーフティネットは

あるんです。

社会保障があることで皆が自分の可能性にかけられ、それが経済や社会の安定を支えることにつながります。

日本の社会保障は持続できるのか

社会保障の持続可能性についての議論があります。でもそれは、この国の社会とか経済が持続できるかどうかと同義なんです。社会保障のただで持続可能性を議論することには意味がありません。

例えば医療保険が大変だつていう訳です。では、医療費をどうすれば減らせるかというところ、お年寄り殺しちゃえばいいわけですね。15日過ぎたら医療費払いませんとか、1年に2回までとかやっちゃえば、ファイナンス出来ます。でも、そんな役に立たない医療保険制度作っても意味がない。

そんなことしたら、この国が崩壊するわけです。医療保険が果たすべき役割は果たせなければいけないので、そういう仕組みを作らなくてはいけません。

経済成長は大事 分配も大事です

社会保障は、経済全体の富を分配するツールです。ですから、経済の総体を上回って大きな制度は作れません。当たり前だけど。だから、経済成長は大事です。一方で、分配の問題もあ



ります。ものすごく豊かで大きな国なのに、2千万人も3千万人も医療保険を受けられないという国もあるわけですね。

もし、世の中の所得分配がちやんとできて、みんなが豊かなら、社会保障は要らないわけです。でも現実はずいぶんなくて、いろんな分配のひずみがある。私の立場からすると、世の中の不公平とかを経済政策でちやんと直してくれてれば、こんなに社会保障がシヤカリキになってやらなくなつていいんだと思います。

具体的な社会保障改革

2040年にむけてどういう社会保障改革をするのか。突き詰めれば3つです。

一つは成長戦略で、ちやんと経済成長しなくちゃいけない。2つ目は、政府の政策遂行能力を確保するには元手が要るので、やはり財政再建。3つ目は、社会の安定を維持するために社会保障はやらなくてはいけない。この3つをちやんと同時に解決することです。

全世代型社会保障というのは、取り合いではなく、それぞれに必要な財源を確保するということです。

社会保障の費用を名目額で議論することには意味がありません。社会保険は保険料も給付も、賃金と物価に連動しています。経済成長すれば伸びるし、しなければ伸びない。

今後の社会保障費の伸びは意外とマイルド

そういう視点で見ると、実は2000年から2015年まで、この国はずいぶん大変でした。この間、GDPはほとんど増えていないのに、高齢化が進みました。

このために社会保障の対GDP比は、1.46倍に増えています。年金にマクロスライドを入れたのは、これがあつたからです。ところが、この先2040年までは倍率で言うと1.2倍程度にかなりません。

なぜそうなるかというと、ひとつはマクロ経済スライドで年金が減るからです。医療、介護は増えます。子

どもは増やすのですが、もともとは給付も小さいので、全体で見ると伸びがマイルドになります。

非正規の方が年金に入ると、マクロ経済スライドは早めに止まる

社会保障全体をファイナンスの観点で見ると、年金は大丈夫です。これ以上税方式にするとか民営化するとか、必要ありません。

ただ、少しずつ下がっていくので、そこをどうすれば下げないですむか、と考えるわけです。答えはいくつかあります。

まず、本人の選択で受給年齢を先に延ばすというのがありますね。

もう一つは、担ぎ手を増やすことです。非正規の方などに対象を広げる。実は、非正規の人に年金に入ってもらうと、マクロスライドを早めに止めることができます。非正規に適用を拡大できると、色んな事が解決できます。

いの一にやるべきなのはこれです。

仕事と家庭が両立できる社会を

男は居住まいを正して、お皿を洗おう

日本にとって一番深刻なのは、少子化です。これは、社会保障レベルではなく、日本国の存続の問題です。やるべきことは二つ。

2040年まではもう決まっている、手元にあるリソースでどうしのぐか。その先は、これは今手当をすれば20年後、我々は未来を作るわけです。端的に言えば、出生率対策です。

ここは、個人の人権とかライフスタイルに関わることなので、強制したり数値目標を作ったりするものはありません。普通に家族を形成し、子どもを産んで安定的に暮らせる社会、プラットフォームを作るということですね。

この二つを同時にやらなくてはいけません。労働力が足りないから女性に働いてくれと。そうすると子どもを産めないという社会ではどちらも倒れるわけです。とにかく働くことと家族を持つことが両立できる社会

を作るしかないのです。これを同時にやるって、どれだけ女性は大変だったか。まず男の頭の構造を変える。

男どもが反省して、居住まいを正して女性を支援する、帰ってお皿を洗う。むしろ今の若い人は、そういうのに抵抗がありません。

カネや太鼓で子どもを産めと言っても子どもは増えません。そもそも日本は子どもにお金を使っています。保育所の待機問題もなくなっています。

もう思い知ったわけですよ。人口が減って、マーケットは小さくなるは限界集落は増えるわ。

そうすると、何よりもこの話の名宛人は、政府というのがあります。やはり自分たちがどう変えるか、ということになります。

若い人をどう支えるか、というのが上の世代の仕事だと思えますので、退職者連合の皆さんにも最後に少子化の話をしました。

野党(立憲民主・社民)

税制改正ヒアリングに出席しました

11月25日、野党会派の税制改正に関するヒアリングが行われ、立憲民主党から長妻厚生労働部会長、中島事務局長が、退職者連合からは、人見会長、北村副会長、野田事務局長、川端常任幹事、草野副事務局長が出席しました。

野田事務局長が政策制度要求に沿って「所得税の再分配機能の強化」「ふるさと納税の廃止」などを、北村副会長からは「PCR検査の無料化、補助金の支出」を要請しました。



あいさする人見会長



長妻部会長、中島事務局長

社会保障学習会の模様は、12月10日まで Youtube でご覧いただけます。下記の URL もしくは QR コードからアクセスしてください。

<https://youtu.be/-g9F2Es314>



お詫びと訂正

ふれあい情報 335 号の記事に誤りがありました。「ブロックからの報告」中、近畿ブロックの総会を「11月30日」と記載しましたが、「10月18日」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。